

小学校の体育授業の充実を目指した基礎的研究
—— 群馬県における低学年の体育授業の実態調査を通して ——

鬼澤陽子・安原志帆・内藤年伸

**A Basic Study to Enrich Physical Education Classes
in the Lower Grades of Elementary Schools:**

Through the Surveys on Condition of Physical Education Classes in Gunma prefecture

Yoko ONIZAWA, Shiho YASUHARA and Toshinobu NAITO

小学校の体育授業の充実を目指した基礎的研究

—— 群馬県における低学年の体育授業の実態調査を通して ——

鬼澤陽子¹⁾・安原志帆²⁾・内藤年伸³⁾

1) 群馬大学教育学部保健体育講座

2) 高崎市立西部小学校

3) 前橋市立下川淵小学校

(2016年9月30日受理)

A Basic Study to Enrich Physical Education Classes in the Lower Grades of Elementary Schools: Through the Surveys on Condition of Physical Education Classes in Gunma prefecture

Yoko ONIZAWA¹⁾, Shiho YASUHARA²⁾ and Toshinobu NAITO³⁾

1) Faculty of Education, Health & Physical Education, Gunma University

2) Seibu Primary School, Takasaki

3) Shimokawabuchi Primary School, Maebashi

(Accepted September 30th, 2016)

Key words : 教員の意識調査, よい体育授業, 合同体育

1. 緒言

子どもの体力や運動能力の低下, 運動習慣の二極化が小学校低学年の段階から深刻な問題となっている。低学年は, 様々な運動遊びの経験から多様な動きや運動への肯定的な態度を身につける時期であり(文部科学省, 2012a), この段階における運動経験が少ない場合や偏った場合には, その後の新たな運動の習得が困難であったり, より多くの時間を必要としたりする(Gallahue, 1996)。

したがって, 小学校低学年の段階から多様で豊富な運動経験や基本的な動きの習得を保証することが必要であり, すべての児童が運動をする唯一の機会である体育授業が果たす役割は大きいといえる。

その一方, 小学校体育授業の問題点も指摘されて

いる(文部科学省, 2012b; 2013)。①小学校の教員は全教科を担当するため, 体育の教材研究にかけられる時間が限られていること, ②教科書がないこと, ③体育実技について必修の研修はなく, 参加は個人の選択に任されていること, ④教員の高齢化によって示範を行うことが難しい場合があること, ⑤教員養成の課程で各教科に関する科目の単位は少なく, 専門性が高いとは言えないこと, などである。そのため, 「教師によって指導レベルの格差がある」「専門性を重視した指導が十分に実施されていない」などの「教員の指導に関する問題」が生じている。

これらの問題の解決に向けて, 教師の指導力向上を目指した取組(指導資料の作成・研修会の開催など)や, 小学校体育における教科担任制(学級担任による交換授業・体育専科教員の配置など)が行わ

れている。なかでも、群馬県の教育改革・群馬プロジェクトでは、平成16年度から「体育指導が得意ではない先生のもとでも、子どもたちが運動を好きになる」ことをコンセプトとした「小学校体育授業プログラム」の開発が進められてきた。このプロジェクトを進めるにあたり、まず、実際に体育授業を行う小学校教員の指導に関する実態把握のための調査を行っている。群馬県内の104名の小学校高学年の学級担任を対象とした体育授業に関する実態調査の結果、小学校高学年の学級担任は、体育指導にあまり自信を持っていないことに加えて、中学校保健体育免許保有者が少ないこと、特に教職歴の浅い教員や女性教員は授業を展開するための詳細な資料を望んでいること等を明らかにした（群馬県小学校体育研究会調査委員会・大友，2006）。これを受けて、体育授業ですぐに活用できる「小学校体育授業プログラム」が開発された（2007，2010，2012）。なお、このプログラムを活用することにより、教員が体育授業に関する専門的知識および効果的な教授技術を理解できるようになることも意図されている。

また、低学年の体育授業における問題としては、「児童に好きな運動遊びをさせているだけで、多くの動きが経験できない授業が見られる」「一般的な運動種目に取り組み、その種目に必要な動きのみに経験が偏っている授業が見られる」と指摘されている（阿部，2008）。さらに、低学年は女性の教員や体育の専門でない教員が多いこと（古城ら，1999）、体育の教科担任制は高学年で実施されることが多く低学年での実施率は低いこと（文部科学省，2014）などから、教師の指導力や専門性に関する課題は高学年以上に深刻な状況にあると考えられる。低学年からの一貫した取組を行うためには、低学年体育授業における指導の実態を把握することが必要である。

そこで本研究では、群馬県小学校体育研究会調査委員会・大友（2006）による小学校高学年の学級担任への実態調査を参考にして、群馬県の低学年学級担任を対象に「低学年体育授業」および「教員の意識と指導」に関する調査を行うことで、低学年からの一貫した指導や体育授業の充実に向けての資料を得

ることを目的とした。

2. 研究の方法

2.1. 調査対象と調査方法

群馬県内すべての国公立小学校317校を対象にアンケート調査を実施した。より多くの学校から回答を得るため、群馬県小学校体育研究会（以下、小体研とする）に協力を依頼し、アンケート調査実施の周知や、調査用紙の配布および回収を行った。

まず、調査用紙は、群馬県小学校水泳教室記録会にて、小体研の会長から各郡市の理事に郡市内の小学校分を配布した。その後、各郡市の理事から、郡市内のそれぞれの小学校へと配布をし、アンケート調査を実施した。回収は、学校ごとに手渡しまたは郵送にて行った。上記の手続きのもと、301校からの回答を得た（回収率95.0%）。

2.2. 調査期間

2015年8月7日に、小体研の各郡市の理事へ調査用紙の配布を行い、各学校からの調査用紙の回収は2015年11月20日までに行った。

2.3. 調査用紙の作成

「低学年体育授業」および「教員の意識と指導」の実態を明らかにするために、低学年の学級担任を対象とした「低学年の体育授業に関するアンケート」を作成した（巻末資料1）。アンケート用紙を作成するにあたり、群馬県小学校体育研究会調査委員会・大友（2006）を参考にした。このアンケート調査の主な調査項目は「体育指導に関する意識（7項目）」「指導上の留意点（17項目）」および「指導の自己評価（10項目）」であった（全34項目）。本研究では、そのうち32項目を適用し、新たに12項目を追加して、全44項目とした。調査項目は以下の通りである。

2.3.1. 学校の基本情報（フェイスシート項目¹⁾）

まず、学校の基本情報として「全クラス数」「全校児童数」「教職員数（全教職員数・体育教科担任

数・体育免許の保有者数)」について記載を求めた。

2.3.2. 低学年学級担任の基本的属性

大問1では、小学校第1学年および第2学年担当教員の基本的属性について「教職歴」「性別」「体育免許の保有の有無」「今年度担任している学年・クラス」「担任クラスの体育授業を担当しているか」の項目を設定した。教職歴の区分について、群馬県小学校体育研究会調査委員会・大友(2006)では「10年未満」「20年未満」「20年以上」の3区分であったが、本研究では、教職歴「30年以上」を加え4区分とした²⁾。そして、教職歴「10年未満」は若手教員、「10年～19年」は中堅教員、「20～29年」は教職歴20～29年のベテラン教員、「30年以上」は教職歴30年以上のベテラン教員とした。

2.3.3. 学校の体制について

大問2では、体育授業の充実を目指すにあたり、合同体育³⁾の実施の有無も大きく影響すると考え、

「合同体育の実施の有無」を尋ねた。合同体育を実施している場合には、①実施単元数：「年間1単元(水泳など)」「年間2単元程度」「年間の半分程度」「全単元で実施」から1つ選択、②合同クラス数：「2クラス合同」「3クラス合同」「それ以上」から1つ選択、③教員数：「合同クラス担任のうち1人のみ」「合同クラスの担任全員」「合同クラスの担任数以上」から1つ選択する形式にした。

2.3.4. 体育指導や運動に関する意識について

大問3では、低学年学級担任の体育指導や運動に関する意識について取り上げた(計14項目)。

質問項目については、群馬県小学校体育研究会調査委員会・大友(2006)の7項目をそのまま適用しようとしたが、そのうち1項目は質問内容の意図が伝わりにくいと判断したことから一部修正した。具体的には、「私は、『できない～できる』ための学習内容がわかっている」を、「私は、できないことをできるようにするための指導内容(ポイント)が分かって

表1 「体育指導や運動に関する意識」の質問項目とその枠組み

枠組み	質問項目	分類 ^{※1}
体育の重要性	私は、体育は大切な教科だと考えている。	○
運動に対する意識	私は、運動が好きだ。	○
	私は、運動が得意だ。	○
運動指導の自己評価	私は、運動を教えるのが得意だ。	○
	私は、自分の体育授業を見せることに抵抗を感じない。	○ ^{※2}
体育授業・運動指導に関する理解	私は、よい体育授業のイメージを持っている。	◇
	私は、できないことをできるようにするための指導内容(ポイント)が分かっている。	○ ^{※3}
	私は、そのポイントを指導するための指導の工夫(手立て)が分かっている。	○
指導力を高める意欲	私は、体育の教師用指導資料などを活用している。	◇
	私は、体育の研修に参加したいと思っている。	◇
	私は、体育の研修へ進んで参加している。	○
低学年体育に対する意識	私は、低学年の体育授業は重要だと考えている。	◇
	私は、低学年の体育の授業には、体育の専門性が必要だと考えている。	◇
	私は、低学年の体育の授業には、児童理解が必要だと考えている。	◇
子どもの活動への共感	私は、児童ができたことを自分のことのように喜ぶ。	○ ^{※4}
	私は、児童と一緒に体を動かすよう心がけている。	○

※1 「○」は大友(2006)から適用した項目、「◇」は本研究で追加した項目である。

※2 変更前：私は、自分の授業を見せることに抵抗を感じない。(下線部は変更箇所)

※3 変更前：私は、「できない～できる」ための学習内容がわかっている。

※4 変更前：私は、児童ができたことを自分ごとのように喜ぶ。(下線部は変更箇所)

ている」「私は、そのポイントを指導するための指導の工夫（手立て）が分かっている」の2つに分けた（8項目）。

この他、新たに6項目を追加した。具体的には、まず教員が指導力を高めるために、どのような方法で学ぼうとしている、もしくは、学んでいるのかを明らかにするために「私は、体育の研修へ参加したいと思っている」「私は、体育の指導資料などを活用している」の2項目を追加した。この他、「よい体育授業のイメージ」に関する項目（1項目）、「低学

年の体育授業の重要性」に関する項目（1項目）、低学年の体育授業において「体育の専門性」や「児童理解」が必要であるか（各1項目）を追加した。これらによって、大問3の質問項目は計14項目となった。回答は、「あてはまる」「どちらともいえない」「あてはまらない」の3件法にて求め、それぞれ3点、2点、1点とした。

大問3の全14項目の結果を考察する際の枠組みとして、質問の内容から「体育の重要性」「運動に対する意識」「運動指導の自己評価」「体育授業・運動

表2 「体育指導に関する指導上の留意点」および「体育指導に関する教師の自己評価について」の質問項目とその枠組み

枠組み		質問項目	分類 ^{※1}
設 計	単 元 計 画	私は、単元計画を作成して授業を行っている。	○
		私は、新しい単元に入る前には、児童の実態把握を欠かさずしている。	○
	授 業 計 画	私は、子どもが体を動かす時間を多くとっている。	○
		私は、子どもが「教え合う」や「励まし合う」活動を意図的に設定している。	○
		私は、準備や片付けを工夫している。	◇
		私は、学習目標をはっきり設定している。	◇
	私は、分かりやすい説明を行っている。	◇	
実 施	学 習 環 境	私は、楽しく学習できるような運動（教材、場づくり、学習課題）を用意している。	◎
		私は、学習成果を生み出すような運動（教材、場づくり、学習課題）を用意している。	◎
		私は、学習資料（学習ノート、カード）を有効に活用している。	◎
	教 師 の 相 互 作 用	私は、心を込めて児童に関わっている。	◎
		私は、ほめたり励ましたりする活動を積極的に行っている。	◎
		私は、適切な助言を積極的に与えている。	◎
	意 欲 的 学 習	私の体育授業では、子どもが、意欲的に学習に取り組んでいる。	◎
		私の体育授業では、子どもの笑顔や拍手、歓声などがみられる。	◎
		私の体育授業では、子どもが、自ら進んで学習している。	◎
	効 果 的 学 習	私の体育授業では、子どもの上達していく姿がみられる。	◎
		私の体育授業では、子ども同士が、積極的に教え合っている。	◎
		私の体育授業では、子どもが何を学習し何を身につけようとしているのかが、よくわかる。	◎ ^{※2}
		私の体育授業では、授業の約束事が、守られている。	◎
	授 業 の 勢 い	私の体育授業では、移動や待機の場が少ない。	◎
		私の体育授業では、授業の場面展開が、スムーズに行われている。	◎
		私の体育授業は、「よい体育授業」である。	◎
そ の 他	私は、運動を苦手とする児童に対して、積極的に言葉をかけるよう努めている。	○ ^{※3}	
	私は、運動が苦手な児童も楽しく活動ができるよう心がけている。	◇	
	私は、子どもの「めあて」をいつもチェックして学習を進めている。	○	
評 価	授 業 評 価	私は、児童からの授業評価を重要視している。	○
	学 習 評 価	私は、毎時間、評価簿を記入している。	○

※1 大友（2006）のうち、「◎」は体育授業観察チェックリストからの項目、「○」はそれ以外である。「◇」は本研究で追加した項目である。
 ※2 変更前：私の体育授業では、子どもが何かを学習し何かを身につけようとしているのかが、よくわかる授業である。（下線部は変更箇所）

※3 変更前：私は、授業中、運動を苦手とする児童に対して、積極的に言葉をかけるよう努めている。（下線部は変更箇所）

指導に関する理解」「指導力を高める意欲」「低学年体育に対する認識」の6つに分類した(表1)。なお、「子どもの活動への共感」の2項目は、大問4で設定した項目であったが、大問3と合わせて、「体育指導や運動に関する意識」として考察することとした。

2.3.5. 体育指導に関する指導上の留意点および体育指導に関する教師の自己評価について

大問4では、「体育指導に関する教師の指導上の留意点」について、大問5では「体育指導に関する教師の自己評価」について取り上げた(表2)。群馬県小学校体育研究会調査委員会・大友(2006)の質問項目設定の根拠(枠組み)をみると、授業観察者が授業過程を観察評価するために作成された「体育授業観察チェックリスト」(高橋ら, 1996)から構成された項目(16項目)とそれ以外の項目(11項目)に分類できた。しかし、後者については、設定した根拠(枠組み)が確認できなかったことから、本研究では、西森(1999)の「授業づくりの『設計』『実施』『評価』の3つ過程」を採用し、質問項目の修正・追加を行った。なお、「実施」については、「体育授業観察チェックリスト」から構成された項目で代用できると判断した。

この「体育授業観察チェックリスト」は、「意欲的学習(子どもの笑顔・歓声, 学習意欲)」「効果的学習(教え合い, 学習成果, 学習内容が分かる)」「教師の相互作用(ほめる・励ます, 心を込めて関わる, 適切な助言)」「授業の勢い(マネジメント, 学習規律)」「学習環境(教材, 施設・用具, 学習資料)」の5観点(各3項目, 計15項目)に「総合評価」1項目を追加した16項目から構成されている。これら5観点は、高橋ら(1994)の「よい体育授業の条件」にほぼ符合していると言われている(日野ら, 1996)。

次に、「体育授業観察チェックリスト」以外の項目(11項目)について、そのうちの4項目を「設計」、2項目を「評価」として分類した。これらに分類できなかった5項目のうち、「苦手の児童への対応(1項目)」「子どもたちのめあての把握(1項目)」については、「実施」に位置づけた。また、「子どもの活

動への共感(2項目)」については前述の通りとし(表1参照)、残りの1項目は、「体育授業観察チェックリスト」から構成された項目と類似しているため削除した。

この他、新たに4項目を追加した。その内訳は、「設計」に関する3項目:「準備や片付けの工夫」「学習目標の設定」「分かりやすい説明」、[実施]に関する1項目:「苦手の児童への配慮」である。その結果、大問4では計20問、大問5では計10問となった。

2.4. 有効回答率

「低学年の体育授業に関するアンケート」は、301校から987名の教員の回答を得た。欠損値を有する回答を除いた284校、947枚を有効回答とした(有効回答率95.9%)。

2.5. 統計処理

データ処理は、IBM SPSS Statistics ver. 21.0を用いて行った。

3. 結果と考察

ここでは、アンケート調査から得られた結果をもとに、「体育授業に関わる学校としての取組」「低学年体育授業の実態」「低学年担当教員⁴⁾の意識と指導の実態」の3点から考察することにした。

3.1. 体育授業に関わる学校としての取組

1学校あたりの体育免許保有者数をみると、0人の学校は、32/284校であった。その一方で、小規模や適正規模の学校において、4人以上体育免許保有者がいる学校は36校であり、教員配置の偏りが明らかとなった。

3.2. 低学年の体育授業の実態

学校の規模上、合同体育をするケースもあると判断できる学校⁵⁾は、11.3%(32校)であった。しかし、全学校(284校)のうち合同体育を実施している学校は、第1学年、第2学年のいずれも約9割に上り、学校の規模からすると実施する必要のない学校にお

表3 低学年における合同体育の実施学校数

(N = 284)	1年		2年	
	n	%	n	%
実施している	252	88.7	248	87.3
実施していない	32	11.3	36	12.7

表4 合同体育実施時のクラス数

(N = 284)	1年		2年	
	n	%	n	%
実施している	252	88.7	248	87.3
クラス数	2クラス合同	78 31.0	82 33.1	
	3クラス合同	74 29.4	73 29.4	
	4クラス合同	26 10.3	24 9.7	
	5クラス合同	9 3.6	6 2.4	
	異学年	65 25.8	63 25.4	
実施していない	32	11.3	36	12.7

表5 合同体育の実施単元数

(N = 284)	1年		2年	
	n	%	n	%
実施している	252	88.7	248	87.3
実施単元	年間1単元	13 5.2	16 6.5	
	年間2単元	84 33.3	87 35.1	
	年間の半分	59 23.4	45 18.1	
	全単元	96 38.1	99 39.9	
	未記入	0 0.0	1 0.4	
実施していない	32	11.3	36	12.7

表6 合同クラス数別にみた、合同体育の実施単元数

1年 (N=289)	2クラス合同 (n=78)		3クラス合同 (n=74)		4クラス合同 (n=26)		5クラス合同 (n=9)		異学年合同 (n=65)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1単元	0	0.0	5	6.8	0	0.0	1	11.1	7	10.8
2単元	18	23.1	23	31.1	9	34.6	2	22.2	32	49.2
年間の半分	18	23.1	22	29.7	11	42.3	4	44.4	4	6.2
全単元	42	53.8	24	32.4	6	23.1	2	22.2	22	33.8
2年 (N=289)	2クラス合同 (n=82)		3クラス合同 (n=73)		4クラス合同 (n=24)		5クラス合同 (n=6)		異学年合同 (n=63)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1単元	2	2.4	5	6.8	2	8.3	0	0.0	7	11.1
2単元	19	23.2	26	35.6	11	45.8	2	33.3	29	46.0
年間の半分	17	20.7	16	21.9	5	20.8	3	50.0	4	6.3
全単元	44	53.7	25	34.2	6	25.0	1	16.7	23	36.5
未記入	0	0.0	1	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0

いても実施されていることが明らかとなった(表3)。

合同クラス数をみると、「2クラス」は第1学年：31.0%、第2学年：33.1%、「3クラス」はいずれの学年も29.4%、「4クラス」または「5クラス以上」の学校数を合計すると、第1学年：13.9%、第2学年：12.1%であった(表4)。群馬県の低学年における学級定員は30人のため、「2クラス」での合同体育では30~60人程度、「3クラス」での合同体育では60~90人程度、「それ以上のクラス数」での合同体育では100人以上もの子どもが一斉に活動を行っていることが容易に想定できる。このことから、低学年の体育授業において子どもたち1人1人に十分な学習機会を保障するという観点からすると、改善の余地があるといえる。

実施単元数をみると、「年間の半分程度」での実施は、第1学年：23.4%、第2学年：18.1%であり、「全単元」での実施は、第1学年：38.1%、第2学年：39.9%であった(表5)。水泳指導や運動会に向けた授業として、年間1、2単元のみ合同体育が実施されるケースはあるものの、合同体育を実施している学校(全体の9割)のうち、いずれの学年においても約2割が「年間の半分程度」で実施、約4割が「全単元」での実施であった。

また、合同クラス数が多ければ、実施単元数は年

間1, 2単元程度であるというわけではなく、「3クラス」合同の場合であっても、「年間の半分程度」または「全単元」での日常的な実施は、第1学年：62.1%、第2学年：56.1%であった（表6）。さらに、「4クラス」または「5クラス」での合同体育の場合でも、「全単元」で実施している学校は数校あった。

3.3. 体育授業低学年担当教員の意識と指導の実態の結果と考察

3.3.1. 低学年担当教員の实態

低学年の担当教員の教職歴をみると、「10年未満」の若手教員が38.5%、「20年～29年」と「30年以上」のベテラン教員を合わせると44.5%であった（表7）。これより、低学年担当教員は、若手教員とベテラン

表7 低学年担当教員の教職歴、性別および体育免許の保有の有無

(N=947)		n	%
教職歴	10年未満	365	38.5
	10年～19年	161	17.0
	20年～29年	231	24.4
	30年以上	190	20.1
性別	女	756	79.8
	男	191	20.2
体育免許	有	160	16.9
	無	787	83.1

教員が8割以上を占め、中堅教員は少ないことが分かった。性別は、女性が79.8%、男性が20.2%と女性の割合が非常に高かった。また、体育免許の保有者は16.9%であった。

3.3.2. 低学年担当教員の体育指導や運動に対する意識の実態

低学年担当教員の体育指導や運動に対する意識の実態について、全体の傾向を明らかにするために、すべての回答（N=947）のうち「あてはまる」の割合を検討することとした。さらに、教職歴による特徴を明らかにするために、各項目や観点ごとの平均点を教職歴による比較検討をすることにした。

(1) 体育指導や運動に関する意識の実態

ここでは、「体育指導や運動に関する意識（7観点16項目）」のうち、「体育の重要性」「運動に対する意識」「運動指導の自己評価」「体育授業・運動指導に関する理解」「指導力を高める意欲」「子どもの活動への共感」の6観点について考察することとした。

①低学年担当教員全体の傾向（表8）

まず、「体育の重要性」を認識している教員は、98.1%であった。次に、「運動指導に関する自己評価」をみると、「運動を教えることが得意」は11.8%、「体育授業を見せることに抵抗を感じない」は24.6%であった。これらにより、「運動を教えること」「体育

表8 「体育指導や運動に関する意識」に「あてはまる」と回答した教員数とその割合

枠組み	項目	(N=947)	
		n	%
体育の重要性	体育は大切な教科である。	929	98.1
運動に対する意識	運動が好きである。	640	67.6
	運動が得意である。	242	25.6
運動指導の自己評価	自分の体育授業を見せることに抵抗を感じない。	233	24.6
	運動を教えるのが得意である。	112	11.8
体育授業・運動指導に関する理解	よい体育授業のイメージを持っている。	343	36.2
	指導内容（ポイント）が分かっている。	148	15.6
	指導の工夫（手立て）が分かっている。	142	15.0
指導力を高める意欲	体育の教師用指導資料などを活用している。	614	64.8
	体育の研修に参加したいと思っている。	441	46.6
	体育の研修へ進んで参加している。	166	17.5
子どもの活動への共感	児童ができたことを自分のことのように喜ぶ。	839	88.6
	児童と一緒に体を動かすよう心がけている。	471	49.7

授業をすること」に自信のある教員は2割前後と少なく、多くの低学年担当教員は指導に不安を抱えていることが分かった。

また、これらに関連する項目の「体育授業・運動指導に関する理解」をみると、「できないことをできるようにするための指導内容（ポイント）が分かっている」は15.6%、「そのための指導の工夫（手立て）が分かっている」は15.0%であった。これらにより、「基本的な動きを身に付ける」「できないことをできるようにする」視点をもった低学年の体育の授業づくりが十分にできていない可能性が読み取れる。

このことに関連して、まるわかりハンドブック（文部科学省、2012b）では『運動を楽しく行う中で体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けたりすること』も、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるスタートの段階として必要なことであると述べている。低学年の体育授業においても、基本的な動きを身に付けるために「できないことをできるようにする」ための教師の指導・支援が必要であり、そのためには、「指導の内容や手立ての理解」が求められている。

さらに、「よい体育授業のイメージをもっているか」の質問に対して、「あてはまる」と回答したのは36.2%であった。高橋（2010）は、「よい体育授業とは、つきつめて考えると『目標が達成され、学習成果が十分に上がっている授業である』とし、加えて、「よい体育授業がどのような授業であるのか鮮明にイメージできれば、よい授業を設計したり、実践することも可能となる」と述べている。上述した「基本

的な動きを身に付ける」「できないことをできるようにする」視点をもった授業を十分に行えていない背景には、「よい体育授業のイメージ」を持っていないことも影響していると考えられる。

一方、「指導力を高める意欲」の項目をみると、「研修に参加したい」は46.6%に対し、「研修に参加している」は17.5%であった。「研修に参加したい」と思いながらも、実際に研修会に参加し、指導力を向上させるまでには至っていないといえる。

また、このことは、合同体育の影響も考えられる。合同体育により学級担任が自分のクラスの体育授業に責任を持っていない状況であるため、体育は重要だとの認識しながらも、指導に関する理解やよい体育授業のイメージが持てないままになっている可能性もある。

②教職歴別にみた特徴（表9）

教職歴による「体育指導や運動に関する意識」の特徴を検討するため、観点ごとに対応のない一元配置分散分析による比較を行った。

その結果、「運動に対する意識」の平均値は、ベテラン教員（20～29年：4.56、30年以上：4.46）に対し、若手教員（4.81）が有意に高かった（ $p<.01$ ）。また、「子どもの活動への共感」の平均値は、ベテラン教員（20～29年：5.04、30年以上：5.08）より中堅教員（5.37）が、さらに中堅教員よりも若手教員（5.55）が有意に高い値を示した（ $p<.001$ ）。このことにより、教職歴が浅い教員の方が、運動に対して好意的であり、子どもの活動へ共感していることが明らかになった。

表9 教職歴ごとの「体育指導や運動に関する意識」における分散分析の結果

枠組み（項目数）	①若手 (10年未満)	②中堅 (10～19年)	③ベテラン (20～29年)	④ベテラン (30年以上)	F 値	p 値	多重比較
	n=365	n=161	n=231	n=190			
運動に対する意識 (2)	4.81 ± 1.16	4.65 ± 1.14	4.56 ± 1.11	4.46 ± 1.12	4.87	.002**	③④<①
体育の重要性 (1)	2.98 ± 0.15	2.99 ± 0.79	2.99 ± 0.93	2.95 ± 0.22	4.13	.006**	④<①②③
運動指導の自己評価 (2)	3.72 ± 1.21	3.79 ± 1.21	4.00 ± 1.14	3.87 ± 1.11	2.73	.043*	①<③
運動指導・体育授業に関する理解 (3)	5.81 ± 1.56	6.24 ± 1.40	6.50 ± 1.40	6.55 ± 1.43	15.36	.000***	①<②③④
指導力を高める意欲 (3)	6.97 ± 1.43	6.96 ± 1.25	6.75 ± 1.38	6.40 ± 1.37	8.08	.000***	④<①②③
指導資料の活用	2.50 ± 0.71	2.66 ± 0.55	2.62 ± 0.60	2.53 ± 0.61	3.23	.022*	①<②
研修に参加している	1.88 ± 0.74	1.87 ± 0.68	1.85 ± 0.70	1.75 ± 0.61	1.49	.215	
子どもの活動への共感 (2)	5.55 ± 0.64	5.37 ± 0.75	5.04 ± 0.76	5.08 ± 0.78	31.35	.000***	③④<②<①

平均（点）±標準偏差

* : $p<.05$ ** : $p<.01$ *** : $p<.001$

一方、「運動指導の自己評価」の平均値は、教職歴20～29年のベテラン教員（4.00）に対し若手教員（3.72）が有意に低く（ $p<.05$ ）、「運動指導・体育授業に関する理解」の平均値は、若手教員（5.81）が他の教職歴の教員に比べて有意に低い値を示した（ $p<.001$ ）。特に若手の教員は、運動指導に不安を抱えており、その要因の1つに、運動指導・体育授業に関する理解不足が考えられる。なお、「指導力を高める意欲」についての項目をみると、若手教員の「指導資料を活用している」の平均値（2.50）は、中堅教員（2.66）に比べ有意に低くなった（ $p<.05$ ）。また、「研修に参加している」の平均値は、教職歴による有意な差はみられなかった。したがって、若手教員は、運動指導に不安を抱え、運動指導・体育授業に関する理解不足であるものの、体育授業に関する情報を得ようとしていない、もしくはその段階でつまづいていることが考えられる。

教職歴30年以上のベテラン教員の傾向をみると、「体育の重要性」および「指導力を高める意欲」の平均値（2.95、6.40）が他の教職歴の教員に比べて有意に低い値を示した（ $p<.01$ 、 $p<.001$ ）。これらのことから、他の教職歴の教員に比べ、体育は重要であるとの認識が低く、指導力を高める意欲も低いといえる。

(2) 低学年担当教員の低学年体育に対する意識の実態

ここでは、「体育指導や運動に関する意識（7つの枠組み、16項目）」の残りの1観点である「低学年体育授業に対する認識」について取り上げた。

①低学年担当教員全体の傾向（表10）

「低学年体育は重要である」と回答したのは、97.8%であり、ほぼ全員が低学年体育授業の重要性を認識していた。また、低学年体育授業において、「児童理解が必要である」は95.5%であった。その一方、「体育の専門性が必要である」は45.1%と半数に満たなかった。まるわかりハンドブック（文部科学省、2012a）では、低学年の学習指導のポイントとして「運動の特性や魅力に応じて指導すること」「学習内容として、子どもたちの実態からどのような『易しい運動遊び』を取り上げることが適切か考えること」をあげている。つまり、「運動の特性や魅力を理解」した上で「子どもたちの実態」に応じ、教材を修正・提供する必要がある。まさに、低学年体育の学習指導では「児童理解」だけでなく「体育の専門性」も必要であるといえる。

②教職歴別にみた特徴（表11）

教職歴による「低学年体育授業に対する認識」の特徴を検討するため、項目ごとに対応のない一元配置分散分析による比較を行った。その結果、「体育の専門性が必要である」についてのみ、若手教員（2.43）

表10 「低学年体育に対する認識」に「あてはまる」と回答した教員数とその割合

項目	(N=947)	
	n	%
低学年体育授業は重要である.	926	97.8
低学年体育授業において体育の専門性は必要である.	427	45.1
低学年体育授業において児童理解は必要である.	904	95.5

表11 教職歴ごとの「低学年体育に対する認識」における分散分析の結果

項目	①若手 (10年未満)	②中堅 (10～19年)	③ベテラン (20～29年)	④ベテラン (30年以上)	F値	p値	多重比較
	n=365	n=161	n=231	n=190			
低学年体育授業の重要性	2.98 ± 0.13	2.97 ± 0.17	2.99 ± 0.11	2.96 ± 0.19	1.31	.271	
体育の専門性の必要性	2.43 ± 0.65	2.50 ± 0.60	2.29 ± 0.62	2.27 ± 0.55	6.56	.000***	③④<①②
児童理解の必要性	2.93 ± 0.28	2.98 ± 0.14	2.97 ± 0.18	2.96 ± 0.20	2.59	.051	

平均（点）±標準偏差

*** : $p<.001$

および中堅教員の平均値 (2.50) に比べて、ベテラン教員の平均値 (20~29 年 :2.29, 30 年以上 :2.27) が有意に低い値を示した ($p<.001$)。したがって、ベテラン教員は低学年の体育授業において「体育の専門性」が必要であるとの認識が低いといえる。

3.3.3. 低学年担当教員の体育指導の実態

(1) 低学年体育授業の「実施」における実態

①低学年担当教員全体の傾向

まず、「体育授業観察チェックリスト」による項目について、5つの観点別に特徴を検討した(表12)。観点別における項目(各3項目)の合計点を、対応のある一元配置分散分析による比較を行った。その結果、0.1%水準で有意な差が認められた。多重比較(Bonferroni)の結果、①学習環境<④効果的学習<⑤授業の勢い<②教師の相互作用=③意欲的学習であった($p<.001$)。これらのことから、低学年の体育授業では、教師の積極的な関わりによるあたたかい雰囲気の中で、子どもたちが意欲的に活動

していることが分かった。しかし、有効な教材が提供されているとは言い難く、したがって、十分な学習成果を期待できるとは言えない。現行の学習指導要領(2008)では、体育授業においても学習成果の保障が求められていることから、「学習環境」を整え、「効果的学習」を行うことが求められる。

次に、この5つの観点ごとに項目別に検討した(表13)。その結果、観点としては高い割合であっても、それを構成する項目ごとにも低い項目も含まれていた。具体的には、「授業の勢い」観点では、「移動や待機の場数が少ない」「授業の場面展開がスムーズ」に対して「あてはまる」と回答した教員の割合が低かった(それぞれ36.1%, 28.1%)。「教師の相互作用」観点では、「適切な助言を与えている」に対して「あてはまる」と回答した教員の割合が低かった(34.2%)。これらは、いずれも事前に準備が求められる項目であった。

ちなみに、「授業の勢い」観点の「授業の約束事が守られている(69.7%)」および「教師の相互作用」

表12 「体育授業観察チェックリスト」における分散分析の結果

(n = 947)	①学習環境	②教師の相互作用	③意欲的学習	④効果的学習	⑤授業の勢い	F 値	p 値	多重比較
得点	6.41 ± 1.31	7.95 ± 0.95	8.04 ± 1.06	6.8 ± 1.16	7.22 ± 1.16	645.63	.000***	①<④<⑤<②③
平均(点) ± 標準偏差								*** : p<.001

表13 「体育授業観察チェックリスト」の項目に「あてはまる」と回答した教員数とその割合

観点(項目数)	項目	(N=947)	
		n	%
学習環境 (3)	楽しく学習できるような運動を用意している。	384	40.5
	学習成果を生み出すような運動を用意している。	199	21.0
	学習資料を有効に活用している。	187	19.7
教師の相互作用 (3)	心を込めて児童に関わっている。	736	77.7
	ほめたり励ましたりする活動を積極的に行っている。	845	89.2
	適切な助言を積極的に与えている。	324	34.2
意欲的学習 (3)	子どもが、意欲的に学習に取り組んでいる。	736	77.7
	子どもの笑顔や拍手、歓声などがみられる。	728	76.9
	子どもが、自ら進んで学習している。	491	51.8
効果的学習 (3)	子どもの上達していく姿がみられる。	491	51.8
	子ども同士が、積極的に教え合っている。	233	24.6
	何を学習し何を身につけようとしているか、よくわかる。	201	21.2
授業の勢い (3)	授業の約束事が、守られている。	660	69.7
	移動や待機の場数が少ない。	342	36.1
	授業の場面展開が、スムーズに行われている。	266	28.1
総合評価 (1)	私の体育授業は、「よい体育授業」である。	56	5.9

観点の「心を込めて児童に関わっている (77.7%)」「ほめたり励ましたりしている (89.2%)」は高い割合を示しており、いずれも授業内で実施することが可能な項目であった。

これらのことから、「授業の勢い」「教師の相互作用」における項目間の差は「授業内で実施できるもの」、「授業前に準備が必要であるもの」との差であり、授業前の準備の有無によって生じるといえる。

「実施」の総合評価となる、「私の体育授業は、『よい体育授業』である」に対し、「あてはまる」と回答した教員の割合は5.9%と、すべての質問項目において最も低い値であった。

また、「実施」の「体育授業観察チェックリスト」以外の項目をみると、「苦手な子への積極的な声かけをしている」「苦手な子も楽しく活動できるよう心がけている」「子どもの『めあて』をチェックし学習を進めている」の3項目に対し「あてはまる」と回答した教員の割合は、それぞれ、91.6%、70.0%、16.6%であった(表14)。

したがって、低学年担当教員の多くが、苦手な児童への声かけをし、楽しくできるように心がけていることが分かった。しかし、前述したように「学習成果を生み出す運動の用意 (21.0%)」や「適切な助言を与えている (34.2%)」は過半数を下回ってい

ることから、苦手な児童を気にかけてはいるものの、「できるようになる」場や手立てなどの準備は十分でないことが読み取れる。さらに、児童の「めあて」を把握し、授業を進めている教員は16.6%と少なかったことから、低学年の児童に「めあて」を持たせずに、活動を行っている可能性が高いといえる。

②教職歴別にみた特徴

教職歴別に「体育授業観察チェックリスト」の観点ごとに対応のない一元配置分散分析による比較を行った(表15)。その結果、5つの観点のうち高い値を示した「教師の相互作用」および「意欲的学習」では、教職歴による差はみられなかった。したがって、低学年担当教員は、相互作用を積極的に行い、子どもたちは意欲的に学習していることが分かった。

若手教員の傾向をみると、「学習環境」の平均値(6.07)は他に比べて低い値を示した(p<.001)。「効果的学習」の平均値(6.63)は、ベテラン教員(20~29年:6.92, 30年以上:6.95)より有意に低い値であった(p<.01)。上述した、低学年担当教員全体の「有効な教材を提供することができず、十分な学習成果を生み出せていない」傾向は、特に若手教員において顕著であることが分かった。「授業の勢い」においても、若手教員の平均値が他に比べて低い値

表14 「実施」のその他の項目に「あてはまる」と回答した教員数とその割合

枠組み	項目	(N=947)	
		n	%
苦手な子への対応	苦手な子への積極的な声かけをしている。	867	91.6
	苦手な子も楽しく活動できるよう心がけている。	663	70.0
めあての確認	子どもの「めあて」をチェックし学習を進めている。	175	16.6

表15 教職歴ごとの「体育授業観察チェックリスト」の項目における分散分析の結果

観点 (項目数)	①若手 (10年未満)	②中堅 (10~19年)	③ベテラン (20~29年)	④ベテラン (30年以上)	F 値	p 値	多重比較
	n=365	n=161	n=231	n=190			
学習環境 (3)	6.07 ± 1.33	6.54 ± 1.18	6.65 ± 1.32	6.41 ± 1.22	14.65	.000***	①<②③④
教師の相互作用 (3)	7.90 ± 0.91	8.03 ± 0.79	7.97 ± 1.01	7.95 ± 1.06	0.83	.480	
意欲的学習 (3)	8.05 ± 1.07	8.10 ± 1.01	8.07 ± 1.01	7.65 ± 1.14	0.74	.530	
効果的学習 (3)	6.63 ± 1.19	6.81 ± 1.08	6.92 ± 1.16	6.95 ± 1.14	4.49	.004**	①<③④
授業の勢い (3)	6.92 ± 1.17	7.29 ± 1.09	7.38 ± 1.12	7.56 ± 1.13	15.88	.000***	①<②③④
総合評価 (1)	1.83 ± 0.49	1.87 ± 0.50	1.93 ± 0.46	1.96 ± 0.40	3.90	.009**	①<④

平均 (点) ± 標準偏差

** : p<.01 *** : p<.001

となった ($p<.001$)。したがって、若手の教員は、「学習環境」「効果的学習」「授業の勢い」の3観点において、他の教員よりも値が有意に低いことから、よい体育授業を十分に行えていない可能性が示唆された。

ここで、ベテラン教員(20~29年および30年以上)の特徴を検討するために、「授業の勢い」の項目に着目した(表16)。3つの質問項目のうち、「約束事が守られている」「移動や待機が少ない」の2項目では、若手教員とベテラン教員(20~29年および30年以上)の間のみ有意な差が認められたものの($p<.001$)、若手教員と中堅教員の間には有意な差は認められなかった。これにより、特にベテラン教員および30年)は、「授業の勢い」として学習規律やマネジメント時間の減少を重視し、体育授業を行っていることが読み取れる。

(2) 低学年体育授業の「設計」における実態

①低学年担当教員の傾向(表17)

「学習環境」の値が低くなった要因を探るべく、授業づくりの「設計」に関する項目を検討した。「設計」に関する7項目のうち、「あてはまる」が過半数

を上回った項目は、「十分な運動時間の設定(72.9%)」のわずか1項目であった。特に、「単元計画」の「単元計画を作成している(20.6%)」「単元前には児童の実態把握をしている(15.8%)」は低い割合であり、「単元計画」を立てていない教員が約8割であることが分かった。

そもそも授業計画を立てていなければ、有効な教材を準備することができず、効果的な学習を生み出すことは難しい。これは、日常業務に忙殺される中で、授業準備のための時間を十分に確保することが難しいという、学校現場の現状が顕著に表れているといえる。しかし、限られた時間の中でも授業の「設計」を十分に行い、有効な教材の提供や効果的な学習につなげることが求められる。

②教職歴別にみた特徴(表18)

教職歴別に特徴を検討するため、「単元計画(2項目)」「授業計画(5項目)」の合計点について、対応のない一元配置分散分析による比較を行った。その結果、「単元計画」における若手教員の平均値(3.67)は、中堅教員(4.04)および20~29年のベテラン教員(3.97)に対し有意に低い値であった($p<.001$)。また、「授業計画」の平均値は、若手教員

表16 教職歴ごとの「授業の勢い」の項目における分散分析の結果

項目	①若手 (10年未満)	②中堅 (10~19年)	③ベテラン (20~29年)	④ベテラン (30年以上)	F値	p値	多重比較
	n=365	n=161	n=231	n=190			
授業の約束事が守られている	2.59 ± 0.51	2.68 ± 0.48	2.77 ± 0.45	2.78 ± 0.45	9.61	.000***	①<③④
移動や待機の場面が少ない	2.22 ± 0.57	2.33 ± 0.55	2.35 ± 0.52	2.45 ± 0.52	8.07	.000***	①<③④
授業の場面展開がスムーズ	2.11 ± 0.55	2.29 ± 0.51	2.26 ± 0.55	2.33 ± 0.53	8.97	.000***	①<②③④

平均(点) ± 標準偏差

*** : $p<.001$

表17 「設計」の項目に「あてはまる」と回答した教員の割合

枠組み	項目	(N=947)	
		n	%
単元計画	単元計画を作成している。	195	20.6
	単元前には、児童の実態把握をしている。	150	15.8
授業計画	子どもが体を動かす時間を多くとっている。	690	72.9
	子どもが「教え合う」や「励まし合う」活動を設定している。	335	35.4
	準備や片付けを工夫している。	394	41.6
	学習目標をはっきり設定している。	414	43.7
	分かりやすい説明を行っている。	344	36.3

表18 教職歴ごとの「単元計画」および「授業計画」における分散分析の結果

観点 (項目数)	①若手 (10年未満)	②中堅 (10~19年)	③ベテラン (20~29年)	④ベテラン (30年以上)	F 値	p 値	多重比較
	n=365	n=161	n=231	n=190			
単元計画 (2)	3.67 ± 1.06	4.04 ± 1.01	3.97 ± 1.11	3.92 ± 1.00	6.42	.000***	①<②③
授業計画 (5)	9.31 ± 1.59	9.96 ± 1.47	10.05 ± 1.42	9.96 ± 1.40	16.23	.000***	①<②③④
平均 (点) ± 標準偏差							*** : p<.001

表19 「評価」の項目に「あてはまる」と回答した教員の割合

枠組み	項目	(N=947)	
		n	%
授業評価	児童からの授業評価を重要視している。	105	11.1
学習評価	評価簿を毎時間記入している。	65	6.9

(9.31) が他の教員に比べて有意に低い値となった (p<.001)。したがって、特に若手の教員は、単元計画および授業計画を立てていないことが分かった。

(3) 低学年体育授業の「評価」における実態

「評価」の項目のうち、授業評価についての「児童からの授業評価を重要視している」は 11.1%、学習評価についての「毎時間評価簿を記入している」は 6.9%であった (表 19)。

3.4. 教職歴別にみた低学年担当教員の特徴と今後の支援の方策 (まとめ)

3.4.1. 若手教員について

まず、若手教員は体育授業についても他の教科と同様に、授業の「設計」が基本であることを認識し、授業準備を十分に行う必要がある。そのためには、「体育の授業づくり」に関する専門的な知識を学ぶことが求められる。しかし、若手教員は、学ぼうとする気持ちをなかなか実行に移せない状況にある。

そこで、身近にある学びの機会として「指導資料の活用」が有効であるといえる。なぜなら、指導資料は、容易に手に取ることができるからである。単元前に授業で扱う運動について情報を得ることからはじめ、指導資料の内容をクラスの実態に合わせて修正し授業をつくるなどが求められる。現段階では若手教員の指導資料の活用率は低い、有効に活用し、指導資料を生かした授業づくりが行えるようになれば、授業の「設計」段階での問題をクリアでき

るといえる。この他、身近な学びの機会としては、若手教員から校内の体育主任や体育専科教員などに積極的に相談をすることで、授業づくりについての理解を深めることが必要である。

次に、学校としては体育授業について学ぶ体制を構築し、校内研修で互いの体育授業を参観すること、若手教員が提案授業を行う機会を設けるなど、実践的な体育の授業力を身に付けることができる環境づくりが求められる。また、学校外の実技研修会や公開授業などにも、運動や体育授業に対する意識が高い若手教員こそ積極的に参加するなど、学び続ける姿勢が求められる。

3.4.2. ベテラン教員について

まず、ベテラン教員による体育授業は、学習規律が確立された授業であるものの、「生活指導のための体育授業」となっている可能性がある。そこで、意識改革のためには低学年体育授業におけるねらいや、「できないことをできるようにする」学習成果を保障する体育授業の必要性を理解してもらう必要がある。そのためには、高い専門性を有し指導力のある教員の体育授業を参観し、「低学年の体育授業でも子どもが、できなかったことができるようになる」という実感を持ってもらうことも必要であるといえる。その上で、日常的に体育授業の内容に関する情報を得られるよう環境を整える必要がある。

4. まとめ

本研究の目的は、群馬県の小学校低学年の学級担任を対象にアンケート調査を行い、「低学年体育授業」および「教員の意識と指導」の実態を明らかにし、低学年からの一貫した指導や体育授業の充実に向けての資料を得ることであった。

調査の結果、以下の点が明らかにされた。

- 1) 本調査では、学校の規模からすると合同体育を実施する必要のない学校が約9割を占めたにも関わらず、その実施率は、いずれの学年も約9割であり、そのうちの約6割は日常的に合同体育を実施していた。
- 2) 低学年担当教員の多くは、体育の重要さは認識しているものの、指導に対する自信がないと回答した。その原因は、指導の内容・ポイントの理解不足、よい体育授業のイメージの欠如によるものであるといえる。
- 3) 低学年の体育授業では、教師の積極的な関わりによるあたたかい雰囲気の中で、子どもたちが意欲的に活動していた。
- 4) しかし、単元計画や授業計画が立てられておれず、事前に周到な準備や計画が必要となる「有効な教材」の提供が不足しているため、学習成果を生み出す環境が十分に整っているとは言い難い。
- 5) 教職歴別に特徴をみると、若手教員は運動指導への不安、運動指導・体育授業に関する理解不足を感じていながら、授業の設計を十分に行っていないこと、指導力を高める意欲は高いものの、実行（指導資料の活用、研修への参加）に移せていないことが分かった。

授業の「設計」が基本であることを認識し、まずは身近にある指導資料を有効に活用すること、学校としては校内で互いの体育授業を参観できる体制を構築することなどが求められる。

- 6) ベテラン教員は、他の教員より「授業の勢い」を優先していることから、約束事を守るなどの生徒指導・生活指導のための体育授業を実践しがちな傾向にあるといえる。

したがって、低学年体育授業のねらいや、学習

成果を保障する体育授業の重要性を理解してもらうために、日常的に体育授業の具体的な内容に関わる情報を提供していく必要がある。

以上の結果・考察により、低学年担当教員の体育授業に対する不安や課題が明らかとなった。これらの結果をもとに、低学年担当教員への具体的な支援の方策を考え、低学年からの一貫した指導を目指した取組を進めていくことが急務の課題といえる。

注

- 1) 学校の基本情報（フェイスシート項目）については、各学校の体育主任に別紙にて回答を求めた。
- 2) 教職歴を4区分としたのは、「小学校では教員の高齢化が進み、体育の授業において児童に手本を見せるのが難しい場合もある」（文部科学省、2012a）との指摘から、教職歴「20年以上」のベテランの教員に関して、より詳細に実態を把握するためである。
- 3) 合同体育とは、同じ授業時間に同じ場所で、2クラス以上が合同で体育授業を行うことである。
- 4) 「低学年体育授業に関するアンケート」を作成した際には、低学年の学級担任を対象にしていたものの、実際には学級担任以外で低学年の体育授業を担当している教員（体育専科教員や特別支援学級の担任など）からの回答が含まれていた。本研究では、学級担任以外の教員からの回答も分析の対象としたことから、結果と考察においては、「低学年学級担任」ではなく「低学年担当教員」と表記した。
- 5) 本研究では、合同体育を実施する場合も考えられる、「1クラスの児童数が極端に少ない小規模校」と「授業場所の確保が難しいケースがある大規模校」をそれぞれ、「複式学級を有する学校および1学年10人程度の学校」、「1学年4～5クラス以上の学校（801人以上）」の場合とした（学校全体のクラス数および全児童数から、学校の規模を求めた）。したがって、上記を除いた学校を「学校規模からすると合同体育を実施する必要のない学校」と捉えることとした。

文献

- 阿部幸弘（2008）体をスムーズに動かすことを目指した低学年の体育学習—多くの基本的動作を取り入れた運動遊びを通して—。平成20年度神奈川県立体育センター長期研修研究報告書。

- David L. Gallahue (1996) 幼少期の体育—発達の視点からのアプローチ—. 杉原隆監訳, 大修館書店: 東京.
- 群馬県教育委員会・群馬大学 (2013) 小学校体育授業プログラム. <http://gepra7.ec-net.jp/01programs/index.html> (2016/1/15)
- 群馬県小学校体育研究会調査委員会・大友智 (2006) 群馬県における小学校体育授業に関する基礎的研究—高学年を対象にして—. 群馬の学校体育, 52: 33-47.
- 日野克博・高橋健夫・伊与田賢ほか (1996) 体育授業観察チェックリストの有効性に関する検討—特に子どもの形成的授業評価との相関分析を通して—. スポーツ教育学研究, 16(2): 113-124.
- 古城健一・西本一雄・植木義章ほか (1999) 小学校における体育科の現状—大分県下の小学校教員を対象として—. 大分大学教育福祉科学部研究紀要, 21(2): 395-410.
- 文部科学省 (2008) 小学校学習指導要領解説体育編. 東洋館出版社: 京都.
- 文部科学省 (2012a) 教師用指導資料 小学校体育 (運動領域) まるわかりハンドブック 低学年—第1学年及び第2学年—. アイフィス: 東京.
- 文部科学省 (2012b) スポーツ基本計画. http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/plan/ (2015/4/20)
- 文部科学省 (2013) 平成25年度全国体力・運動能力, 運動習慣等調査報告書. 東京書籍: 東京.
- 文部科学省 (2014) 平成25年度公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況調査の結果について. http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1342497.htm (2015/9/5)
- 西森章子 (1999) カリキュラムと授業の理解. 多鹿秀継編, 認知心理学から見た授業過程の理解. 北大路書房: 京都.
- 高橋健夫 (2010) よい体育授業の条件. 高橋健夫ほか編, 新版体育科教育学入門. 大修館書店: 東京.
- 高橋健夫・長谷川悦示・日野克博ほか (1996) 体育授業観察チェックリスト作成の試み—観察者の評価観点の構造を手がかりに—. 体育学研究, 41(3): 181-191.
- 高橋健夫・岡沢祥訓 (1994) よい体育授業の構造. 高橋健夫編, 体育の授業を創る. 大修館書店: 東京.

巻末資料 1

低学年の体育授業に関するアンケート		【マーク記入例】	良いマーク	悪いマーク	
			<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
問1. 先生ご自身について	(1) 教職歴	<input type="radio"/> 10年未満	<input type="radio"/> 10年～19年	<input type="radio"/> 20年～29年	<input type="radio"/> 30年以上
	(2) 性別	<input type="radio"/> 男	<input type="radio"/> 女		
	(3) 中学校または高等学校保健体育免許	<input type="radio"/> 有	<input type="radio"/> 無		
	(4) 今年度、担任をしているクラス	学年: <input type="text"/> 年	<input type="radio"/> 1年	<input type="radio"/> 2年	クラス: <input type="text"/> 組
	(5) 担任をしているクラスの体育授業を担当していますか。	<input type="radio"/> 担当している	<input type="radio"/> 担当していない		
問2. 学校の体制について	(1) 低学年体育授業における合同体育の実施について、 <input type="radio"/> <input type="radio"/> のどちらかを選び、マークしてください。	<input type="radio"/> 実施している ⇒ 下記(2)へお進みください。 <input type="radio"/> 実施していない ⇒ 問3へお進みください。			
	(2) 合同体育を実施している単元・クラス数・教員数について当てはまるものをそれぞれ1つ選んでください。				
	実施単元:	<input type="radio"/> 年間1単元(水泳など)	<input type="radio"/> 年間2単元程度	<input type="radio"/> 年間の半分程度	<input type="radio"/> 全年元で実施
	クラス数:	<input type="radio"/> 2クラス合同	<input type="radio"/> 3クラス合同	<input type="radio"/> それ以上	
教員数:	<input type="radio"/> 合同クラスの担任のうち1人のみ	<input type="radio"/> 合同クラスの担任全員	<input type="radio"/> 合同クラスの担任数以上		
問3.	以下の質問は、 体育指導や運動に関する意識 について書かれたものです。当てはまるものを <input type="radio"/> ~ <input type="radio"/> から1つ選び、マークしてください。	当てはまる	どちらとも いえない	当てはま らない	
(1) 私は、体育は大切な教科だと考えている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(2) 私は、運動が好きだ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(3) 私は、運動が得意だ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(4) 私は、自分の体育授業を見せることに抵抗を感じない。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(5) 私は、運動を教えるのが得意だ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(6) 私は、よい体育の授業のイメージを持っている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(7) 私は、できないことをできるようにするための指導内容(ポイント)が分かっている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(8) 私は、そのポイントを指導するための指導の工夫(手立て)が分かっている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(9) 私は、体育の教師用指導資料などを活用している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(10) 私は、体育の研修に参加したいと思っている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(11) 私は、体育の研修へ進んで参加している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(12) 私は、低学年の体育授業は重要だと考えている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(13) 私は、低学年の体育の授業には、体育の専門性が必要だと考えている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(14) 私は、低学年の体育の授業には、児童理解が必要だと考えている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
問4.	以下の質問は、 体育授業における指導上の留意点 について書かれたものです。当てはまるものを <input type="radio"/> ~ <input type="radio"/> から1つ選び、マークしてください。	当てはまる	どちらとも いえない	当てはま らない	
(1) 私は、運動を苦手とする児童に対して、積極的に言葉をかけるよう努めている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(2) 私は、児童ができたことを自分のことのように書く。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(3) 私は、子どもが体を動かす時間を多くとっている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(4) 私は、心を込めて児童に関わっている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(5) 私は、ほめたり励ましたりする活動を積極的にやっている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(6) 私は、楽しく学習できるような運動(教材、場づくり、学習課題)を用意している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(7) 私は、子どもが「教え合う」や「励まし合う」活動を意図的に設定している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(8) 私は、適切な助言を積極的に与えている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(9) 私は、学習成果を生み出すような運動(教材、場づくり、学習課題)を用意している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(10) 私は、児童と一緒に体を動かすよう心がけている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(11) 私は、学習資料(学習ノート、カード)を有効に活用している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(12) 私は、単元計画を作成して授業を行っている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(13) 私は、子どもの「めあて」をいつもチェックして学習を進めている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(14) 私は、児童からの授業評価を重要視している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(15) 私は、毎時間、評価簿を記入している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(16) 私は、新しい単元に入る前には、児童の実態把握を欠かさずしている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(17) 私は、準備や片付けを工夫している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(18) 私は、運動が苦手な児童も楽しく活動ができるよう心がけている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(19) 私は、学習目標をはっきり設定している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(20) 私は、分かりやすい説明を行っている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
問5.	以下の質問は、 体育指導に関する自己評価 について書かれたものです。当てはまるものを <input type="radio"/> ~ <input type="radio"/> から1つ選び、マークしてください。	当てはまる	どちらとも いえない	当てはま らない	
(1) 私の体育授業では、授業の約束事が、守られている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(2) 私の体育授業では、子どもが、意欲的に学習に取り組んでいる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(3) 私の体育授業では、子どもの笑顔や拍手、歓声などがみられる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(4) 私の体育授業では、子どもが、自ら進んで学習している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(5) 私の体育授業では、移動や待機の場面が少ない。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(6) 私の体育授業では、子どもの上達していく姿がみられる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(7) 私の体育授業では、子ども同士が、積極的に教え合っている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(8) 私の体育授業では、授業の場面展開が、スムーズに行われている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(9) 私の体育授業では、子どもが何を学習し、何を身につけようとしているのかが、よくわかる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		
(10) 私の体育授業は、「よい体育授業」である。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		

～ アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。～

K10980C 901a